

街エネ推進協議会 DB 部会 座談会 開催報告

日時	2018年1月26日(金)、16:00~18:00		
場所	日立製作所 日本生命丸の内ビル カンファレンスルーム B		
会合	第1回座談会		
主催	街づくりエネルギーマネジメント推進協議会 エネルギーサービス DB 部会		
テーマ	「持続可能な超スマート社会を実現するエネルギーサービス DB の構築戦略」		
議題	1) 趣旨説明 (高口氏)		
	2) 関連話題の提供と意見交換		
	① 「エネルギーデータマップと地域デザイン」(中田氏)		
	② 「バーチャルパワープラント」(江村氏)		
	③ 「DECC の取組みと IDA EBC Annex70」(高口氏)		
	3) まとめ		
座長	早稲田大学	高口	洋人氏
司会	エコまちフォーラム	中丸	正氏
幹事	日立製作所	古谷	雅年氏
補佐	日立製作所	樋渡	元子氏
討論者	東北大学	中田	俊彦氏
	東京大学	田中	謙司氏
	慶應義塾大学	中澤	仁氏
	住友電工	江村	勝治氏
	高砂熱学工業	倉田	昌典氏
	産総研	平野	聡氏

1. 概要

2018年1月26日(水)、日立製作所にて、街づくりエネルギーマネジメント推進協議会 エネルギーDB 部会 (部会長：早稲田大学/高口洋人教授) 主催により、「持続可能な超スマート社会を実現するエネルギーサービス DB の構築戦略」と題した第1回座談会が開催された。本座談会では、テーマに関連する産・学・官を代表する方々にお集まり頂き、建築・都市のエネルギー情報サービスのあるべき姿、新しい価値を、あらゆる視点から議論する。

当面、10名程度によるプライベートな会合として座談会を運営する。各座談会における議論は、報告書あるいは提言書としてまとめ、関係団体へ具体提案するとともに、公開討論会も実施する計画である。

2. 趣旨説明

はじめに、本座談会の座長である早稲田大学/高口先生より、座談会の開催目的や背景、

検討すべき課題などについて説明があった。

近年、建築物の断熱性能、高効率機器、再生可能エネルギーなどを効果的に組み合わせてエネルギー収支ゼロをめざす ZEH、ZEB、さらには、地域・街区レベルの ZED(Zero Energy District)に注目が集まっている。

日本の建築物における環境・エネルギー関連情報を収集し、そのデータを公開する仕組みの1つとして、日本サステナブル建築協会(JSBC)の調査・運営による「非住宅建築物の環境関連公開データベース(DECC)」がある。このDBの元となるデータ収集手段は主として郵送アンケートやWeb入力によるもので、データ提供者も限定的である。

本座談会では、エネルギー情報だけでなく、その他さまざまなデータも含め、その収集、流通、加工、公開、利用における課題を明らかにする。個人情報保護にも配慮する。本座談会での活発な議論を通じ、建築・都市のエネルギー情報サービスのあるべき姿、新しい価値を提案していく。



3. 話題提供と意見交換

第1回座談会では、3件の話題提供をいただき、参加者と活発な意見交換を行った。

東北大学の中田先生からは、「エネルギーデータマップと地域デザイン」と題して、エネルギーフロー統計作成への取組みや地域熱供給の実態について、日本が欧米諸国と比べて特に見劣りする点についての説明があった。統計の調査・作成の体制、建築物の断熱性能、ごみ処理を軸とした地域エネルギー供給インフラなどに関する問題点が指摘された。

住友電工の江村氏からは、「バーチャルパワープラント」と題して、バーチャルパワープラント(VPP)の意義や実証実験などの状況について説明があった。今後、VPPのキーデバースとなるEV(電気自動車)の活用では、走行状態、位置情報、充電状態、利用者行動、性能劣化などの情報が不可欠である。自動車会社が保有するテレマティクスサーバとの連携が鍵となる。

早稲田大学の高口先生からは、「DECCの取組みとIDA EBC Annex70」と題して、DECCのこれまでの実績と不動産価値評価、今後取り組むべき課題について説明があった。所有者や管理者によるエネルギー・環境情報の把握は不十分であり、統計としても偏りがある。



以上